

◇◇「里山の日」の行事から◇◇

森に響いた子供たちの歓声

第 5 回オープンフォレスト in 松戸



↑ スライダーロープ



↑ 森のブランコ気持ちいい♪



ハンモックが大人気♪



↑ モンキーブリッジロープを楽しむ



↑ 竹馬体験

松戸では、里山の日を中心に、市内のすべての里山ボランティアグループが協力し合って、活動フィールドを市民に公開し、楽しんでもらう取り組みが行われています。5月14～23日、全部で17の森が公開され、森の案内のほか、ハンモックで揺られたり、スライダーロープや木登り、竹馬、虫探し、森の紙芝居、竹のクラフト体験など、さまざまに市民と楽しむ行事が展開されました。また、いくつかの森をめぐる 4 回目の「森めぐりツアー」も実施されました。「森の文化祭」には660人、森の公開には延べ 1,360 人の市民が参加しました。



↑ 熱心に取り組んだ竹クラフト

「里山里海の恵みと食」をテーマに

5 月 15 日「里山シンポジウム in 南房総」

第 13 回里山シンポジウムが、5 月 15 日、南房総市立嶺南中学校（和田校舎）で開催されました。テーマは「～南房総お国じまん～里山里海の恵みと食」。黒潮と親潮が交わる生物の多様で豊かな地域特性を生かし、さまざまに活動している里山団体やまちづくり団体による分科会報告やお国じまん報告が行われました。分科会では、安房拓心高等学校の学生による農漁業への取り組みの発表が行われ、若々しい活動に関心が集まりました。（写真㊦）

基調講演は、NPO 法人まちの縁側育み隊代表理事・延藤安弘氏（写真㊧）による「地域の魅力のタンケン・ハッケン・ホットケン」。



氏は、千葉まちづくりサポートセンター初代代表として千葉県内のまちづくりに関与しているほか、台湾を含む日本各地でのまちづくりの実績を踏まえ、「地域に生活する人」（土の人）と“よそ者”（風の人）の出会いと協働作業によって地域の魅力が引き出され、新しい地域文化が形成される。そして、南房総の新たな魅力を発見し、誇りにしようと呼びかけました。

